

氏 名	津村 宗近
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 6783 号
学位授与の日付	2023 年 3 月 24 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Clinicopathologic Analysis of Sinonasal Inverted Papilloma, with Focus on Human Papillomavirus Infection Status (ヒトパピローマウイルス感染に着目した副鼻腔内反性乳頭腫の 臨床病理学的解析)
論文審査委員	教授 本田知之 教授 山元英崇 准教授 團迫浩方

学位論文内容の要旨

副鼻腔内反性乳頭腫 (SNIP) は、鼻腔および副鼻腔の良性新生物であり、原発性鼻副鼻腔腫瘍の 0.5～4%を占めている。SNIP は 12～20%が再発するといわれており、3～7%の症例で悪性転換が見られる。しかしながら SNIP の再発に関連する要因は明らかではない。30 年以上の間、ヒトパピローマウイルス (HPV) 感染が SNIP の病態生理学において主要な役割を果たしていると考えられてきており、再発 SNIP の症例では HPV 検出率が高いとの報告もある。しかしながら HPV 関連 SNIP の再発リスクが高いかについては矛盾した報告がなされており、本研究では HPV 感染を含め年齢、性別、病歴、喫煙、アルコール歴、腫瘍の病期 (Krouse stage)、および手術手技など SNIP の再発に関連する危険因子を分析した。2010 年から 2019 年の間に香川労災病院にて手術を受け、SNIP と診断された 32 人の患者を対象とし、調査した結果、HPV 感染、若年成人、DM、および進行した Krouse stage は再発率と関連している可能性があり、これらの危険因子を持つ患者は手術後に綿密なフォローアップを必要とする可能性があることが示唆された。

論文審査結果の要旨

副鼻腔内反性乳頭腫 (SNIP) は、鼻腔および副鼻腔の良性新生物であり、原発性鼻副鼻腔腫瘍の 0.5～4%を占めている。SNIP は 12～20%が再発するといわれており、3～7%の症例で悪性転換が見られる。30 年以上の間、ヒトパピローマウイルス (HPV) 感染が SNIP の病態生理学において主要な役割を果たしていると考えられてきており、再発 SNIP の症例では HPV 検出率が高いとの報告もある。しかしながら HPV 関連 SNIP の再発リスクが高いかについては矛盾した報告もあり、詳細は明らかでない。本研究で、本研究者は、HPV 感染を含め年齢、性別、病歴、喫煙、アルコール歴、腫瘍の病期 (Krouse stage)、および手術手技など SNIP の再発に関連する危険因子を分析した。

2010 年から 2019 年の間に香川労災病院にて手術を受け、SNIP と診断された 32 人の患者を対象とし、調査した結果、HPV 感染、若年成人、DM、および進行した Krouse stage は再発率と関連している可能性があり、これらの危険因子を持つ患者は手術後に綿密なフォローアップを必要とする可能性があることが示唆された。

委員からは、HPV 感染の証明についての質問があった。本研究者は、本研究では DNA PCR でのみ検出を行っているが、HPV 関連がんでマーカーとされている p16 など他の方法による検証が今後望ましいと回答した。また、近年 SNIP と HPV の関連は否定的な意見が増えているとの意見には、確かに本研究でも HPV の陽性率が低かったことと矛盾しないことを述べた。

本研究は、ヒトパピローマウイルス感染に着目した副鼻腔内反性乳頭腫の臨床病理学的解析を行い再発リスク要因について、重要な知見を得たものとして価値ある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。